

東北の伝統手拭いに込め

仙台城南高生が卒業制作



仙台城南高(仙台市太白区)の生徒が、卒業研究として東北の伝統工芸や文化を題材に手拭いを作った。福島県会津地方の起き上がり小法師や宮城の方言などを個性豊かにデザイン。2月3日、泉区のプランチ仙台で開かれる「オーガニックマーケット」で販売する。

科学技術情報デザインコースの3年生8人が「課題研究」の授業で作った。昨年度の卒業生は、全国の工芸や文化を題材に手拭いを制作。その購入者から「東北の伝統文化にまつわる商品がほしい」との声を受け、今年はデザインの対象を東北に限定した。

自分でデザインした手拭いを広げ、アピールする生徒たち

曲げわっぱに南部鉄器、方言も

染物店協力 来月3日販売

昨年4月に準備を開始。本やインターネットで工芸品や文化への理解を深め、取り上げる題材を選んだ。その後、パソコンやタブレット端末で縦35センチ、横90センチの手拭いの絵柄をデザイン。8月、若林区の染物店「永勤染工場」の協力を得て、型を使い手作業で染める技法「手捺染」で仕上げた。

曲げわっぱを題材にした川田悉来さん(18)は「木目が美しく、機能性が高い曲げわっぱの魅力を知ってほしい」とアピール。南部鉄器を選んだ大堀孝輔さん(17)は「手拭いは手を拭くだけでなく、ファッションのアクセントなどにも使える。伝統文化に興味を持つきっかけになったらうれしい」と話す。

販売は午前10時半〜午後3時半。担当教諭が作った1種類を含む計9種類を十数枚ずつ用意する。1枚1000円。